

あきる野市

第24号

町・自連会報

発行/平成26年 2月28日 発行者/南 征夫 編集/あきる野市町内会・自治会連合会会報部会

二五年度を振り返って

あきる野市町内会・自治会連合会
会長 南 征夫

二五年度も後期の会報となりました。

十二月も中旬となると紅葉もすっかり終わり、枯れ枝に、わずかに残った枯れ葉が、風に吹かれて又一枚飛んでいきました。毎年繰り返される「春夏秋冬」日本が世界に誇れる、すばらしい四季も、すこしずつ変わって来ているような気がします。

今年には役員改選の年になります。多分この会報が発行される頃には、この町内会・自治会でも来年度の役員が決まっていることと思います。本年度の連合会の主要な事業としては救急医療情報キットの普及と、加入促進活動が中心となりました。

夏には、あきる野町内会・自治会音頭を作って盆踊りに踊って頂きました。秋の産業祭にはブースを作って多くの市民に加入促進を呼びかけ、隣り組織の大事さを大勢の皆さんに訴えました。

また、視察研修では、平成十六年に発生した、皆さんの記憶も少しずつ薄れかけてきた、中越大地震の震源地の小

千谷(おぢや)市に行きマグニチュード六・八の地震の恐ろしさをしっかりと眼に焼き付けて来ました。

説明の中で、ビニールハウスを避難所にした話や避難所のトイレに苦労した話もありました。避難生活が長くなる、避難民同士のトラブルも出てきたそうです。解決方法は今まで住んでいた隣組ごとに纏まってもらったそうです。非常事態の中で、このようなことで人の心が安らぐものだと改めて解りました。そして、最後に力を込めて「最初に助けに来てくれたのは、消防署でもありません、市の職員でもありません。それは近所の人でした」と話されました。

この話を聞く中で、防災・安心地域委員会と共同で作成



2013 多摩国体表彰式(馬術競技)

して昨年末配布した安否確認旗は、絶対に必要な物だと確信しました。

しかし、誠に残念なことにこれを全家庭に配布することが出来ません。たとえ無理やりに配布しても、名簿が無ければ確認作業が出来ません。このようなことの無いように、更に加入促進活動を活発に推進していく必要を感じます。

近年町内会長自治会長の仕事が多くなってきました(私が多くした部分もだいぶ有ります)。二五年度もあとわずかにになりました。町内会・自治会音頭の歌詞のように「皆な一で仲良く一暮らしまーしょー」。

安否確認旗「無事」旗の活用方法について

安否確認旗は災害発生時に、その場に居る家族が無事である事をより早く周囲に知らせ、被災者への支援がスピーディーに届き易くする為の旗です。

「無事」旗は緊急地震速報が防災無線により放送された時のみ活用して下さい。「緊急地震速報。大地震です。大地震です。」の速報が流れたら、身の安全確保、火元の確認、在宅家族の安否を確認し、周囲の安全を確認しながら、表の道路から良く見えるドア、門扉、植込み等に掲げて下さい。ご近所で「無事」旗が掲示されて無い時は、必ず訪問し安否を確認して下さい。

これが「近助」なのです。
(会報部会 吉野 清治)



大島町に義援金 連合会から八一万円を送金

平成二五年十月、台風二六号によって大きな土石流被害のあった伊豆大島町に対し、あきる野市町内会・自治会連合会から十一月二日、八一万円(一町内会・自治会あたり一万円拠出)の義援金を送金いたしました。

友好都市でもある大島町からは「被災された方々のために有効に役立たせていただきたいと思います。同時に今後も島内の復興・復旧にお力取り組む所存でございます。」とのお礼の手紙をいただきました。



1日も早い復興が望まれる伊豆大島

(会報部会 石川 稔)

平成二五年度「東京都・あきる野市合同総合防災訓練」

平成二五年十一月二三日(土)に、多摩直下を震源とする地震災害を想定した東京都とあきる野市合同の総合防災訓練が都立秋留台公園と隣接するあきる野市の施設、小宮ふるさと自然体験学校を訓練会場として、地域防災力の向上と災害対応を行う関係機関との連携強化を図る総合防災訓練が実施されました。

東秋留地区

東秋留地区防災・安心地域委員会
委員長 山口 幸男

午前八時に全国瞬時警報システムを合図に一斉に一時集合場所へ避難、その際安否確認旗を自宅前に掲げ、連合会組織に加入していない二自主防災組織を含め、約七割の世帯が「無事」旗を掲げました。

避難・安否確認旗訓練終了後、秋留台自治会三四名を筆頭に総勢八〇四名が総合防災訓練会場に移動しました。会場から遠い人たちは、バスにより、スムーズに移動することが出来たと喜んでいました。

会場では、防災コンクールや様々な訓練が行われていたので、貴重な体験や見学をすることが出来たと思います。反省会では、全国瞬時警報システムの音声が聞き取れない等の意見があり、今後の課題となりました。

西秋留地区

西秋留地区防災・安心地域委員会
委員長 中村 勇

西秋留地区総合防災訓練は、東京防災隣組の取り組み課題としている「多種多様な団体との連携による地域防災力とコミュニティ強化に向けた取組」として実施しました。安否確認旗「無事」旗掲示訓練を実施し、西秋留地区三〇九九世帯に対し「無事」旗掲出二二七一世帯、非掲示八二八世帯、掲示率は七三・三%でした。

各地域での防災訓練終了後、徒歩等で約二〇〇名がメイン会場に集合、住民による共助訓練会場において救助・救護・消火等に参加のほか、地域委員会で初めての「り災証明発行訓練」を体験、緊急物資搬送、被災者支援システム、医療救護班他の訓練を見学しました。

また、東京防災隣組認定団体として、展示訓練に参加し

地区で実施した防災訓練のパネル、チラシ、「無事」旗、西秋留地区避難所運営マニュアル、防災回覧、医療キット等の資料を展示紹介しました。防災訓練を通じて感じたことは、被害を最小限に抑えるために、日常・催事等から「自助」・「共助」・「公助」の考えを持ち、それぞれが災害に対する対応力を付けるとともに、連携を取ることが重要と見え地域の情報の共有、正確な情報伝達方法の確立と信頼される組織を構築する事が必要と考えました。

多西地区

多西地区防災・安心地域委員会
委員長 澤辺 優

東京都・あきる野市合同防災訓練の詳細計画が一ヶ月前でないといふ公表されないという状況の下、町内会・自治会の皆さんに参加連絡がぎりぎりでしたが、事前に各町内会別に配布してあった安否確認旗をサイレン吹鳴後玄関先に掲げていただく訓練をしました。

多西地区三九〇二世帯の中で安否確認旗掲出二六四七世帯六八%でした。

防災訓練メイン会場には駐車場がないため、各町内会から徒歩で参加して頂くことになり会場近くの町内会で出来るだけ大勢の参加をお願いしました。

遠距離の町内は市からのチャーターバスを利用して頂き、尾崎町内会は二十二名、草花住宅自治会は二十三名が九時からの、「り災証明発行訓練」に参加して頂き、十一時から地域住民による消火・救助・応急であてに各町内会から三百三十二名参加して頂きました。

小宮地区

小宮地区防災・安心地域委員会
委員長 市川 六太郎

小宮地区・防災安心地域委員会にて現在一番懸念されている問題は、過疎化・高齢化の急激に進むこの地域の、地震・風雨等による土砂災害による「孤立化」の問題です。

「孤立化」した時に救援・物資等の搬入や移動に頼りとなるヘリコプターの離着陸できる場所を見つけることができませんでした。

しかし、今回の東京都あきる野市合同防災訓練において

て、この地域で最も心配される「孤立化」対策の訓練として、旧小宮小学校屋上にヘリコプターホバリングによる「物資の搬送」・「怪我人等の救出」訓練が行われました。

訓練当日は、消防団はじめたくさんの方の皆さんと訓練に参加できました。参加した人達からは、初めて身近にみる陸上自衛隊のヘリコプターによる「物資の搬送」、消防庁のヘリコプターによる「人命救助訓練」を見学し、地域にとって大変有意義な訓練となりました。



増戸地区

「助け合う みんなの力 ちいきのわ」

入選作品

「みんなで参加 防災訓練 我が身を守る 第一歩」

山田下分自治会 橋本 富夫

地域と学校の連携による防災の取組

増戸地区防災・安心地域委員会 委員長 大久保 春彦

十一月二十日に東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県大槻町の教委職員と小中学校副校長が増戸中学校を訪問された。

増戸地区では地域と学校が連携した防災の取組に力を入れているが、大槻町では震災後防災教育の見直しをしており、増戸の取組を知りたいと来校された。

災害時の防災拠点となる学校、地域の大切な子供達が通う学校と地域が連携して防災



に取組む事は自然と思われが、余り実施されていない。防災教育の講師として度々来校された、当時東大地震研究所の大木聖子先生（現慶応大学准教授）の講演、授業等にも地域住民が参加して勉強させてもらいながら、地域と学校の連携強化の基盤が作られた。

これまで、自治会と子供による自治会毎の防災マップ作成・避難所となる体育館での宿泊体験・地域と学校の合同防災訓練、等を実施している。特に合同防災訓練については計画段階から、小中学校の先生達と一緒に検

討し実施する中から、地域と小中学校との連携が強化された。一二月に実施された防災コンクールにも、先生達のチームが参加して良い成績を上げ、地域との結び付を示す事ができたが、今後も更に連携を強化して地域の防災体制強化を図りたい。

加入促進部会のPR活動について

加入促進部会長 御手洗 泰弘

加入促進部会では平成二五年度前半に加入促進を目的とした「あきる野町内会・自治会音頭」の企画・制作並びに普及活動事業を行ない、あきる野市の夏祭り「流し踊り」には約一千百名の皆様がこの音頭を踊っていただきました。また、あきる野市各地の町内会・自治会で行なわれた、夏の納涼盆踊り大会でも、開催した全ての地域でこの音頭を取入れ、踊りました。

後半では十一月九日、十日、都立秋留台公園で開催された、あきる野市の産業祭会場にブースを設け、昨年と同じように、横断幕やのぼり旗を設置し、町内会・自治会活動のパネル及び救急医療情報キット等を展示し、来場者にチラシやティッシュの配布、子供達には風船を配り、町内会・自治会のPR活動による加入促進事業を行いました。

十一月からは市内転入者への町内会・自治会加入のPR、或は未加入世帯を訪問し、チラシやティッシュ等を配り、町内会・自治会への加入促進活動を実施しています。二六年一月に入り、自動車



取付け専用のマグネツトステッカー「町内会・自治会に加入しましょう」を作り、会長さんや地域の協力者の自家用車等に貼付け、町内会・自治会加入のPR活動を行なっています。

これらの事業は平成二五年度より、あきる野市協働のまちづくり推進事業の一環としてコミュニティ事業交付金の新たな支援制度のお陰で加入促進部会としてもコミュニティ作りの活性化が一段と進み、色々な事業や活動ができた事を報告いたします。

第三回 防災コンクールの報告

あきる野市地域防災本部長 倉田 克治

第三回防災コンクールは、十二月八日五日市会館で開催しました。

防災意識の高揚と災害時に結びつく平常時の活動を目的に開催しました。年々技術と正確さが向上し、今年度は見ごたえのある大会となりました。中でも増戸小中の先生のチームが初トライで三位に入賞し会場を沸かせました。又、五位までを西側で占める西高東低でした。今回は東側もがんばってください。

入賞は、一位増戸A、二位戸倉B、三位増戸C、四位五日市A、五位五日市Bでした。



平成二五年度連合会 視察研修報告

幹事長 伊井 晴美

あきる野市町内会・自治会連合会の視察研修を十一月六、七日に実施いたしました。

参加者五四名は、平成十六年十月に中越大地震が起きた新潟県小千谷市にある、おぢや震災ミュージアム「そなえ館」を視察いたしました。

震度七の直下型地震に襲われた震災体験からの教訓を活かし「イザ」という時の「そなえ」を学ぶ防災施設です。

地震の様子を体感し、震災の被害状況、避難生活、支援活動等、地震発生から復興までの様子を学習いたしました。

改めて、地震の怖さ、悲惨さを実感したと共に、いざ災害が起きた時「地域と連携をとり」「協力し合い」取組む大切さを学びました。

「そなえ館」で学んだことを各地域の自主防災活動に活かしていきたいと思いました。

また、各会長さんが日頃の町内会や自治会活動について、互いに、情報交換が出来たことなど、とても有意義な研修旅行となりました。

地域の話題

草花・慈勝寺

都指定天然記念物
22m巨木モッコクの木



町内会紹介

森山町内会
会長 川村 郷一

都心から50キロ圏に位置する《あきる野市》には、秋川、多摩川そして平井川が流れています。

平井川は日の出山を源とし、日の出町、あきる野市を流れ、JR五日市線鉄橋付近で多摩川に合流する全長約16.5キロメートルの一級河川です。



その多摩川にそそぐ、あきる野市最後の場所が森山地域です。この地域の平井川沿いには、遊歩道があり周辺住民の散歩コースにもなっています。この川には数多くの生物が生息し、どんど焼きや小学生の課外授業などにも利用されています。

四季折々の中で、やはり春の景色が最高です。川沿いには桜並木が続いており、緑色の草木と満開になった、淡い桃色かかった桜の花がなんとも云えぬ雰囲気をかもし出す、絶景ポイントです。

皆様も遊歩道を一度歩いて見ませんか？



役員会・全体会の協議事項

平成二五年

●八月十四日(役員会)

- 視察研修会の計画
- 地域の底力再生事業助成

●九月十八日(役員会)

- △ごみの出し方説明会
- △個人情報保護制度説明会
- △自治総合センター助成事業

○各部会の報告

●十月十七日(全体会)

- △スポーツ祭東京二〇一三(国体のお礼)
- △総合防災訓練(東京都と合同訓練)
- △地域懇談会
- △防災ラジオの受信状況

- △あきる野市一斉清掃
- △花いっぱい運動推進事業調査

○視察研修

○各部会の報告

●十一月二日(役員会)

△防災行政無線

- △個人情報保護法の資料配付
- △町内会・自治会長選任届提出
- △コミュニケーション事業交付金
- △連合会の印刷機器
- 各部会の報告
- 大島町台風二六号義援金
- 第四半期の活動予定
- 新年会

平成二六年

●一月八日(役員会)

- △町内会・自治会への協力依頼事業報告(社会福祉協議会)
- △健康づくり推進委員の推薦
- △第一九回あきる野市スポーツレクリエーション大会
- △地域懇談会質疑応答・意見・提案集
- 新年会
- 二六年度定期総会のスケジュール

○各部会の報告

(注) 印は、連合会協議事項
△印は、市からの報告事項

(会報部会 山中 利勝)
△印は、市からの報告事項

編集後記

昨年十一月福島県の潮屋崎に行く途中、太平洋に面した数件の廃屋と土台だけを残した、だれ一人いない集落跡を通過しました。残ったコンクリート造りの中学校の校庭には、校庭一杯に瓦礫が校舎と同じくらいに積み重なっていました。この惨状に車窓から思わず手を合わせました。

それから一ヶ月過ぎた頃、犠牲者が一人もでなかったことを知りました。中学生が小学生を助け合いながら、海岸から遠く離れた裏山に全員避難したそうです。日頃の心がけと地域の絆の大切さを痛感しました。

会報二十一号から担当した部会員も本号を持って任期を終了します。執筆頂いた方々始め、会報発行にご尽力いただいた皆様に御礼申し上げます。これからも連合会と会員の絆のために会報が活用されることを願い筆を置きます。

(会報部会長 野崎 忠)

会報部会員

- 山中利勝・市川辰雄
- 石川 稔・吉野清治
- 栗原 陽・野崎 忠